

立命館大学大学院国際関係研究科

「国際協力の即戦力となる人材育成プログラム」

平和構築キャリアセミナー（2010年6月1日）

開催報告



アフガンに生きる子どもたち

～教育復興の現場から～

アフガニスタンの復興支援と国際 NGO

教育は子どもたちの自尊感情や他者を思いやる気持ちを育む。それは長きにわたり紛争を経験しているアフガニスタンの復興に欠かせないものである。アフガニスタンの治安情勢が好転する材料に乏しい一方で、将来を担う子どもたちには生きる力強さやみなぎる学習意欲がある。アフガンに生きる子どもたちの「いま」を教育復興の現場から考えることで、将来に希望の光を見出せるような教育支援の可能性を浮き彫りにできるのではなだろうか。

本セミナーでは、アフガニスタンの復興支援に携わる国際 NGO のひとつであるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの現地駐在員として、アフガンの教育復興支援に携わる園田智也さんを講師にお招きし、アフガニスタンにおける教育復興支援の現状や課題、そして子どもたちの生きる姿について語っていただいた。講師の園田さんは、大学卒業後、イギリス留学を経てセーブ・ザ・チルドレンに入り、アフガニスタンでの教育復興支援、ヨルダ

ンでのイラク避難民緊急教育支援、ミャンマーでのサイクロン緊急救援に参加。現在は米国セーブ・ザ・チルドレンのアフガニスタン事務所に出向し、教育復興事業のマネジメントと資金調達に携わる教育支援の専門家である。

参加者の数は 70 名にのぼり、熱気のあるセミナーとなった。





現在、アフガニスタンで活動するセーブ・ザ・チルドレンの職員数は、現地職員と国際職員を含め500名程度おり、就学前の幼児教育、学校での栄養・衛生の教育、教員の研修、学校の建設、PTAへの支援、お母さんへの栄養研修、助産師の研修、子どもの保護、家庭の生計支援など、支援活動は多岐にわたっている。こうした活動

を豊富なデータ、写真、映像、体験談を交えて、詳細に解説していただいたのに加え、国際NGOの一員として仕事をするには実際どのようなことなのか、仕事をする際にどのような経験やスキルが必要なのかなどについてもお話していただいた。また、アフガニスタンで購入されたドライフルーツとアーモンドを参加者へのお土産としてお持ちいただいた。

質疑応答の際には参加者の学生から多くの質問が出され、終了予定時刻を超えても、議論は尽きなかった。セミナー後も、園田さんには会場に残った学生からの質問に丁寧にお答えしていただいた。



こうした活動に関わってこられた園田さんのお話は極めて貴重なものであり、アフガニスタンにおける教育復興支援の現状への理解が深まると同時に、将来、国際協力に関わる分野に進もうと考える学生にとって非常に価値のあるセミナーであった。